

恩林寺広報

No 119

令和三年(二〇二一)盛夏号
臨濟宗建長寺派東光山恩林寺
電話 〇二七六一八八—三五五四
FAX 〇二七六一八八—四一三二
郵便番号 三七〇一〇六〇一

暑中お見舞い申し上げます

恩林寺 閑栖
住職
責任役員

檀徒総代

奉讃会役員一同

新型コロナウイルス感染拡大防止のお願い

檀信徒各家におかれましては、益々ご清祥のごことお慶び申し上げます。平素は寺門興隆にご理解とご協力を賜わり、謹んで敬意を表します。さて、昨年より新型コロナウイルスの感染拡大が衰えを見せない状況下が続いて居ります。このような状況下であることを鑑みまして、いましばらく諸行事や法要等々の中止、規模の縮小に努めさせていただきます。未だ先々の見えない状況下ではありますが、早い終息を祈念して居ります。引き続き感染拡大防止への取り組みのご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。

●新盆をお迎える家

故人名 年齢 施主名 住所

謹んでお見舞い申し上げます。合掌

◎御朱印巡り

この一年、当山に御朱印を求め、ご参拝くださいました参拝者は、約二千名を超えて居ります。中でも、境内の花々が盛んとなる四、五、六月、彼岸花が咲き誇る九、十月には、多くの参拝者が賑わうようになりました。御朱印や境内の四季を楽しむ参拝者が絶えない日常を、誠に有難く感じて居るところであります。御朱印巡りは信心を深め、心を癒し、人を清く正しく美しく育ててくれます。御朱印巡りの素晴らしいさに、皆さんも触れてみてはいかがでしょうか。



お盆

迎え火・送り火・灯ろう流し
お盆の行事は先祖供養の心

迎え火は帰ってくる先祖さまの道しるべ

お盆には様々な行事があります。すぐに思い浮かべるのは「迎え火」「送り火」です。ガスコンロの火、ライター、かがり火...などでしょう。しかし現代人は直接に火に触れる機会が少なくなり、ましては夜も昼のように明るく、闇夜がありません。先祖さまは夜は文字とおり、暗闇でした。先祖さまは十三日の夕方にやってくる。足もとが暗くなるころです。「迎え火」は、遠くからやってくる先祖さまの道しるべなのです。「迎え火」十三日、このころには(十二日)は家の門口などで焚きます。この火は先祖さまを家まで導いてくれる役割りを果たしてくれるとか、燃やした煙によって先祖の霊がその家にもどってくるともいわれています。

昔は夕方にお墓に行き、火を焚きその火を盆提灯に入れて持ち帰るといふ風習もありました。
**帰ってくる先祖さまに
本当に火が見えるのですか**

「迎え火」は帰ってくる先祖さまの道しるべ、その火を頼りに先祖さまは帰ってきます。しかし、すでに故人となっている先祖さまに、子孫が燃やしている火が見えるのか?果たして他の人の火と見分けがつくのか、疑問を感じる人もいるでしょう。それは当然のことです。それは、そういふことにごだわるべきではありません。「迎え火」を焚くのは、先祖さまに対する思いやりの心であり、この世にある私たち自身のお盆に先祖さまに対する供養の心なのです。その心が火を焚く行為なのです。

お盆の灯は、先祖さまに対する供養の心

ところで「迎え火」といっても地方によって様々です。小正月の左義長(ドラント焼き)のように、盆小屋を作って火を焚く火祭りの行事もあります。さらに帰ってくる先祖さまの道しるべに「高灯笼」を立てるところもあります。昔は山の上で火を焚いた、といひます。昔は今とちがひ、町全体が暗かったため、先祖さまを迎えるために灯りが必要だったのです。先祖さまが迷わないように、という昔の人の心が偲ばれます。

盆の終わりの「精霊流し」や「灯ろう流し」「火祭り」は先祖さまを送る行事です

お盆の終わりに焚く火を「送り火」といいます。先祖さまを送る日です。家の門口などで火を焚き先祖さまの足もとが暗くならないように照らしてやります。「送り火」は「迎え火」に比べ盛大です。河原や浜辺で「送り火」を焚くのは、お盆にやってくる先祖さまは川や海に帰る、と古来から信じられてきたからです。村全体で「送り火」を焚くところもあります。お盆の終わりの感傷がありませんが、「送り火」にまつわる行事は豊富です。「灯ろう流し」「精霊流し」も「送り盆」で、先祖さまの霊を送る儀式です。京都の「五山送り火」や長崎の「精霊船」などはよく知られています。また、今は環境問題もあり見られなくなりましたが、昔は、各家で盆の飾り物をまとめて小さな舟にのせ、川や海に流していたところもありました。

お盆の準備

宗派や地域によって異なる場合もありますが、お盆を迎える準備として、前もって仏壇や仏具を清めておきます。そして墓掃除も丹念に行っておきましょう。

●精霊棚をしっかりとる

ご先祖の霊をお迎える為に準備はしっかりとっておきたいものです。お盆に帰って来られるご先祖を「精霊さま」と呼びます。その為にしっかりとるのが「精霊棚」です。「精霊棚」は、帰って来られたご先祖様がしほしの休息をする場所です。果物や野菜などを供え、ご先祖様もてなすのです。「精霊棚」のキユウリの馬、ナスの牛は、ご先祖様の乗り物とされています。

●迎え火(八月十三日)

夕刻に菩提寺にて灯明を置き、ご先祖様をお迎え下さい。火を焚くのはご先祖への思いやりの行為です。ご先祖に対する供養の心が火を焚く心でたとえられます。

●ご供養(八月十四、十五日)

お盆中は灯明を絶やさず、迎え入れたご先祖様のご供養をします。また、当山では十四日に大施餓鬼会法要を営み、ご先祖供養を致して居ります。

●送り火(八月十六日)

十三日に訪れたご先祖の霊がお帰りになる日です。送り火はご先祖が迷わず帰れるよう、照らしてあげるものです。

●施餓鬼会

お盆の期間に営まれる行事は「施餓鬼会」です。この行事は、餓鬼に食物を施す事によって六道の一つ餓鬼世界で苦しんでいる餓鬼を救う行事です。もし自分の先祖が餓鬼世界で苦しんでいるとしたら、何と少しでも救ってあげたい事はできません。施餓鬼の供養がその救いの道とされています。宛めて功德の大きい行事です。

●送り盆 時のお願い

各家精霊棚にお供え戴いて居りました供物につきまして、「ナス」「キユウリ」については当山にて処分致しますが、それ以外の供物等につきましては寺へ持ち込まず、ご自宅にて処分致します様、ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。